

令和2年度 弘前市総合計画審議会 議事概要（第5回）			
日 時	令和2年9月25日（金） 17時30分～19時30分		
場 所	ヒロロ 4階市民文化交流館ホール	傍聴者	0人
出席者	委員 (16人)	森会長、今村委員、高島委員、鴻野委員、吉原委員、藤田委員、淀野委員、大西委員、田澤委員、熊谷委員、清藤委員、鈴木委員、小田桐委員、斎藤委員、珍田委員、外崎委員	
	事務局 (6人)	企画課長、企画課長補佐、企画課総括主査、企画課主査、企画課主査、企画課主事	
	その他		
<b>会 議 概 要</b>			
1 開 会			
2 議 事			
(1) 地方創生関係交付金事業一次評価への意見に対する回答について			
○主な質疑等の内容は以下のとおり。			
①「 <u>都市と地方をつなぐ就労支援カレッジ事業</u> 」			
・「就農体験者受入事業」において、受入先農業法人からは「補助労働力として大変助かっている」という声があったとのことだが、これは当該事業の副次的な効果であり、これを成果として評価することは不適切ではないか。			
⇒いただいたご意見を踏まえ、当該表記については削除いたします。			
・「ローカルベンチャー育成事業」において、ローカルベンチャーの担い手となる地域おこし協力隊との記載があるが、その関係は？			
⇒ローカルベンチャー育成事業は、都市部から起業を目指す方を呼び込み、地域資源を活用した起業プロジェクトに取り組んでもらうものだが、地域おこし協力隊の制度を活用して、起業を目指す方を呼び込んでいる。			
・ということは、当該事業で起業を目指す方は、全て地域おこし協力隊員ということか？			
⇒そのとおりである。			
②「 <u>地域クリエイターと連携した新たな担い手育成及びコンテンツ等開発事業</u> 」			
・津軽塗商品のECサイトが開設されたとのことで、更なる事業効果が期待でき、よかったと思う。今後は、どうやってそのサイトに誘導するのかについて検討してい			

ただきたい。

また、首都圏で販売促進イベントを実施する際には、実施店舗のコンセプトや客層に合った商品を販売するよう、引き続き取り組んでいただきたい。

⇒今後の参考とさせていただきます。

### ③「寝たきりゼロによる健康的で豊かな生活を実践するライフ・イノベーション加速化事業」

- ・成果を求めない漫然たる寄附行為は良くない。今の時代、学生にとって海外に行くことは簡単であり、海外に行ったことが契機となって青森県内に医者として留まるようになる、ということはある。学生の研究成果の発表を支援することは構わないが、ただ単に海外に行くことは物見遊山であり成果を生まない。もう少し突っ込んだ形で事業をやらないと、ばら撒き予算になってしまう。

このほか、月に1回の弘前大学の外科輪番で弘前市は年間およそ1億円負担しているが、弘前大学は地域に貢献する大学であり、救急医療をやることで医師の養成にもつながる。市はしっかりと足場を作って弘前大学と付き合うべき。

⇒海外へ派遣する学生を選定する際には、本人が県内に残りたいという希望を持っているかどうかを、選定基準の一つにしていると聞いている。寄附については弘前大学ともしっかりと協議していきたい。

- ・弘前大学医学部の学生のうち、半分は地域枠で入学しており、その学生は県内に残らざるを得ない状況に置かれてはいるが、やがては県外に出ることを考える場合が多い。研究者としての素養を身に付けるため、学会での発表や論文というハードルを設けた上で、寄附を行うべき。

⇒今後の参考とさせていただきます。

### ④「ひろさきりんご産業イノベーション推進事業」

- ・「剪定技術の学習支援システム」について、いつ社会実装できるのか。また、アシストスーツや折り畳みコンテナ（18kg）の事業効果は農家に波及しているのか。

⇒剪定の学習支援システムについては、令和4年度に完成、実装することを目標にして、後進となる事業の中で取り組んでいる。また、折り畳みコンテナについては昨年検証したばかりの段階だが、アシストスーツは好評を得ている。ただ、実際に現場からの引き合いがくるところまでは至っていない。

- ・アシストスーツは農協でも取り組んでいるが大々的に普及しておらず、折り畳みコンテナについて、りんごの冷蔵庫には現状のコンテナ（20kg）のほうが使い勝手はよいという面もある。今後も検証を進めていく。
- ・折り畳みコンテナ（18kg）について40年前に試した際の話だが、農家から集荷して業者に出荷した後のコンテナ回収に、コンテナの数が多くなる分、時間と費用

がかかったので今後、考慮しながら進めていただきたい。  
⇒担当課とも共有させていただく。

・りんご産業への参入ハードルの低減に向けた一つのアイデアとして、保育園や幼稚園の園庭にりんごの樹を植えてはどうか。小学校も含めてもよいが、ただ食べる、収穫するだけではなく、りんごが育つプロセスや生産者の苦勞を知ることが、弘前ならではの取組になるのではないか。

⇒例えば小・中学生は、「ひろさき卍学」を通じてりんごについて学ぶことになるが、学校の環境によってりんご園が身近な場合とそうでない場合があり、体験内容に差が出てしまう。いただいた意見については、担当課とも共有させていただく。

#### ⑤「弘前さくらまつりにぎわい創出事業」

・弘前公園内にはソメイヨシノ以外にもいろいろな種類の桜があるので、例えば追手門など公園の入口で現在見ごろの桜を紹介するというアピールの仕方もあるのではないか。観光客はくまなく園内を周遊するわけではなく、どこにどういう桜があって、どれが見ごろな桜なのかパンフレット等に記載されていても、観光客には届かないのではないか。目につきやすいPRの手法を検討していただきたい。

・鉢植えに効果があったか疑問。例えば、園内の女子トイレの数を増やすとか、別の予算の使い道もあるのではないか。

⇒担当課に伝え、遅咲きの桜のPRについて検討していくこととする。

#### (2) 地方創生関係交付金事業に関する事業効果評価（案）について

○主な質疑等の内容は以下のとおり。

・事業評価効果について「有効であった」とした委員の数が、「有効でなかった」とした委員の数を上回れば当該事業は「有効であった」となるようだが、賛成多数で決するのであれば本会は紙上開催でも構わないのではないか。「有効ではなかった」とした委員の意見をこの場で深堀しないと、わざわざ集まって本会を開催している意味がないのではないか。

⇒さきほどの議事「(1) 地方創生関係交付金事業一次評価への意見に対する回答について」において、「有効ではなかった」とした委員から出されたご意見や改善点などに触れているので、この場では総括的なまとめ方になることをご了承いただきたい。

### 3 閉 会